「東京六大学野球人国記」を読んで

原田 義則(3 組)

根っから野球好きの上原昇君(2 組)が同窓の丸山清光さん(70 期)の大作・新刊『東京六大学野球人国記 激動の明治、大正、昭和を乗り越え 1 世紀』の紹介文を HP(3 月 4 日付け)に投稿してくれました。学生時代には何回も神宮球場に足を運んだ私は興味を覚え上原君からその本を借りて一気に読みました。

ご存知の通り著者の丸山清光さんは上田高校－明治大学の野球部で活躍した後、朝日新聞で営業マンとして活躍された方です。東京六大学野球の 100 年に亘る膨大な関連データを纏めているのがこの本の特徴ですが、この本には私が個人的に知っている何人かの人物が登場して来ることもあり、学生時代を鮮明に思い出すと共に無性に懐かしくなり、読後感想文を書きたくなりました。

私達が大学に入ったころは高田繁(明治)、田淵幸一(法政)、山本浩二(法政)、富田勝(法政)、星野仙一(明治)、谷沢健一(早稲田)、荒川堯(早稲田) らがスターとして活躍しており、その後、江川卓(法政)のほか、上田高校出身の丸山清光(70 期)、渋沢稔(70 期)達が活躍してしていて、しばしば神宮球場に通っていた頃を思い出しました。チアガールこそいませんでしたが、観客も多く、球場全体が活気に溢れていました。

丸山さんが島岡御大の下、明治の主将・エースとして神宮で活躍していた当時、上田高校でバッテリーを組んでいた渋沢稔さん(70 期)は東大に進学し東大野球部の主軸打者として活躍していてこの本にも登場します。因みに神宮で江川から一番初めにホームランを打ったのは渋沢選手だったのですが、私はその瞬間を応援席で見ていました。数年前に渋沢氏が関東同窓会の総会に現れた際にそのことを話したところ嬉しそうにしていたのも良い想い出です。

渋沢さんが活躍していた頃の東大野球部のマネージャーは古川博士君(小倉高校出身)で、本にも登場します。古川君と私は同じ研究室に所属し、私の後輩なのですが、（彼はマネージャー業務に忙しくて）研究室には余り出て来ないので単位取得が怪しくなったために院生だった私は彼の卒業実習を手伝ったたりしました。その代わりに学内の研究室対抗の野球大会に六大学リーグで首位打者にもなったこともある遠藤選手を助っ人として呼ぶなどの「不正」を共謀したことなどを懐かしく思い出しました。

尚、2015 年の春に東大が史上最長の 94 連敗した後、漸く勝った歴史的試合（対法政）も応援席で見ていました。その前日夜に件の研究室対抗の野球の試合に共に出るなどしていた 50 年来の野球好きの友人達から突然「神宮に行かないか？」との誘いの電話があり、40 数年ぶりに出掛けた所、あれよあれよと言う間に勝って仕舞いました。試合の終盤近くになると、報道関係者が続々と応援席付近にも現れ、応援席も一般観客も大いに盛り上がりました。それ以来、仲間内では「原田が来れば東大が勝つ」と言われ、その友人達から何度か誘いがあったのですが、「そう言うことは度々はない！」と冷静に考えその後は神宮には行っていません。

この「東京六大学野球人国記」は大いに楽しませてくれた本でした。著者の丸山さんと、貸してくれた上原君に感謝です。

（2024 年 3 月 29 日記）　　以上